

平成26年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート 府立北野高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-5

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る <small>小項目（はぐくみたい力） ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他</small>	言語活用能力 ICT活用能力	再編	プレゼンテーション能力の向上	校内外での研究発表本数	校内 70 校外 4	校内 100 校外 10	校内 386 校外 4	課題研究86グループ 教科情報300グループ	A	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	94%	100%	94%	学校教育自己診断	B	充実	SGHの指定を受け、課題研究などにおいて、さらに探究的な学習を深めようとしている。 英語運用能力の向上をめざし実施する学内留学講座では、政治、経済、教育、心理の4分野をオールインイングリッシュで講義しており、生徒の満足度も高い。また、留学生との交流もSGHの取組により大いに増加している。 実績を上げているものの、目標値を極めて高く設定し、厳しく自己評価しているところからも、すべてに高いパフォーマンスを求める学校ならではの真摯な態度が伺える。	A
		英語運用能力	新規	学内留学講座の実施	参加人数	52人	60人	44人		B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	-	100%	91%	各取組み後アンケート	B	充実		
		英語運用能力	新規	英語による講演・大学院留学生との交流会実施	参加人数	-	160人	515人	英語講義12回 留学生4回	A	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	-	100%	84%	アンケート	B	充実		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ <small>小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他</small>	違いを認め共に生きる力の育成	充実	異文化理解教育の実施	海外の高校や大学等へ訪問した人数と受け入れた人数の合計	131人	150人	83人	訪問 ハワイ42人 マレーシア22人 台湾 13人 ケント5人 受入 ケント1人	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	97%	100%	100%	各取組み後アンケート	B	充実	伝統に根差した学校行事が盛んに行われており、文武両道の校風が今に引き継がれている。 異文化理解に関しては、ハワイの語学研修や台湾との交流を継続しながら、年々充実させている。 共感性・協調性の育成をめざし、1年生全員を対象に新たに実施したチームビルディング研修は高い評価を得ている。壁にぶつかることが多くは育ってきた優秀な生徒が切磋琢磨する環境において、人間関係づくりやクラスづくりは重要であり、優れた取組となっている。	AA
		共感性・協調性の育成	新規	チームビルディング研修の実施	参加人数	-	1年生全員	1年生全員		B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	-	参加者の90%	98%	各取組み後アンケート	B	充実		
		バランスのとれた豊かな人間性の育成	継続	学校行事の充実	学校行事における生徒の参加率	100%	100%	100%		B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	全校生徒の88%	全校生徒の90%以上	90%	各取組み後アンケート	B	充実		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす <small>小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他</small>	高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	講演の回数及び講座数	4回 30講座	10回 50講座	10回 42講座	キャリアガイダンス17講座 知的世界5講座 学部ガイダンス13講座 SGH6講座 他1講座	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	参加者の68%	参加者の90%	93%	各取組み後アンケート	B	充実	高い志の育成では、キャリア教育として多岐に渡る分野の講座を実施。各界リーダーによる講演会、若手研究者による学部・学科ガイダンス、社会人による職業ガイダンスなど、卒業生の協力により、毎年充実した内容となっている。これらは、各界に多数の著名人を輩出している学校ならではの取組といえる。 現役で京都大学入学を目標とする生徒が多く、特に、20代OBとの交流が生徒の学習意欲向上につながっていると聞く。	AA
		キャリア教育の推進	再編	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100%	100%	100%		B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	参加者の84%	参加者の100%	93%	学校教育自己診断	B	充実		
		高大連携の推進	充実	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	380人	500人	596人		A	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	参加者の100%	参加者の100%	90%	各取組み後アンケート	B	充実		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	授業力向上	再編	校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割合	全教員の80%	100%	81%		B	授業アンケートや感想による生徒の肯定的評価	全校生徒の73%	全校生徒の90%以上	83%	学校教育自己診断	B	充実	授業見学・研究協議を行うなど、教科を中心に授業力向上の仕組みが作られており、ICTを活用した授業の実施割合も増えている。ただ、教材研究に追われ、見学に行く余裕がない現実や教員の世代交代などの課題がある。 これまでの理系の教科を中心とした研究に加え、SGHの指定により文系の課題研究の内容が深まりつつあり、これらが成果となって表れてきている。	AA
		若手教員の指導力向上	新規	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	-	10回	8回		B	参加教員のアンケートや感想による肯定的評価	-	参加教員の90%以上	100%	アンケート	B	充実		
		授業力・指導力の向上	新規	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学者数	-	500人	515人	保護者438人 学校視察10人 公開授業65人	B	見学者のアンケートや感想による肯定的評価	-	見学者の90%以上	98%	アンケート	B	充実		
V. 総合的な学力の測定	⑭英語外部検定試験										TOEFLiBTスコア	-	受験者平均40点以上	-		C	充実	TOEFLiBTの取組も充実し、スコアも上昇している。SETの配置に伴い、さらに英語運用能力については伸長するものと考えられる。 読解力リテラシー・科学的リテラシーについては、コンテストなどもっと積極的に参加してはどうか。ただ、これまでの課題研究から、SGHの指定により文系の研究についても内容が深化しており、さらなる期待する。 なお、読解力科学的リテラシーについて、今後は別の指標とされたい。	A
	⑮英語外部検定試験										TOEFLiBTチャレンジ受験者のスコア	受験者176人 平均22点	受験者平均30点以上	43点		A	充実		
	⑯読解力リテラシー・科学的リテラシー										進路第一希望現役達成率	44%	50%以上	39%		B	充実		
VI. 進路実現	⑰3年間を見越した進路指導										大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率の平均	77%	80%	77%		B	充実	難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数の伸び悩みは、特に、医学部医学科志望者の増加が主な要因と聞く。ただ、高い志を貫き、志望校を受験していることに変わりなく、センター試験5教科7科目受験者の得点率の平均や受験者の割合も高い水準を維持していることは、大いに評価できる。 今後も、妥協することなく、高い志を維持させる良き伝統を守り、進路実現をめざす指導を続けられることを望む。	A
	⑱大学入試センター試験への参加										大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	96%	96%以上	90%		B	充実		
	⑲大学入試センター試験の結果										難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数	146人	150人以上	111人		C	充実		
VII. 進学実績	⑳国公立大学への進学										国公立大学現役進学者数	148人	150人以上	124人		C	充実	国公立大学現役進学者数が大きく減少しているが、これは難関大学や医学科志望者の増加が要因と考えられる。 一方、海外大学現役進学者が2名出ており、日本のみならず世界を動かす、グローバルリーダーの育成の充実が見られ、今後期待するところである。	A
	㉑海外大学への進学										海外大学現役進学者数	0人	1人	2人		B	充実		

総合評価	I. 確かな学力の向上 II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力 III. 高い志、進路実現 IV. 教員の指導力向上に対する各取組はほぼ完成しているものと考えられるため、今後どのように改善しながら展開していくのかが重要となるであろう。SGHの指定を受け、グローバル人材の育成、課題研究の充実等の面において、取組をさらに深化させている点は評価できる。かつては組織的な取組に課題が見られるとのことであったが、学校教育自己診断の心のケア体制、役割分担の明確化、会議の内容が生かされている等の項目において肯定的評価が大きく伸びており、学校の体制も整ってきている。今後も、良き伝統を守り、「正しき心」「美しき魂」をもって、高い能力を人のために使うことのできる生徒の育成を図り、大阪のフラッグシップを担う高校として、また日本を代表する公立高校として更なる発展を期待する。	AA
------	---	----

平成26年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 府立豊中高等学校

自己評価の基準 A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下
評価審査会 評価の基準 AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である

資料2-1

Table with columns: 大項目, 小項目, 今年度, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審査会の評価コメント, 評価. Rows include categories like 'I. 確かな学力の向上を図る', 'II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくむ', 'III. 高い志をはくむ、進路実現をめざす', 'IV. 教員の指導力向上をめざす', 'V. 総合的な学力の測定', 'VI. 進路実現', 'VII. 進学実績'.

総合評価 これまで学校が行ってきた様々な取組が、グローバルリーダー育成に焦点化され、さらに取組が重層化することにより、学校が次の段階に進もうとしているよううかがえる。多岐に渡っている個々の取組を十分に達成させ、それぞれをどのようにリンクさせるかが次年度以降の課題であろう。SS HとSGH指定に加え、ルーブリック評価やクリティカルシンキングを用いた教材作成など、新たな展開も見られ、今後一層の発展に期待する。 A

平成26年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 府立茨木高等学校

自己評価の基準 A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下

資料2-2

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価会議の評価, コメント, 評価.

Summary evaluation section (総合評価) with columns: 総合評価, 突き抜けた生徒を育てるというだけでなく、幅広い生徒に網をかけて育て、そこから突き抜けてくる生徒を伸ばさせるという学校の姿勢を評価する。...

平成26年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 府立大手前高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-9

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る 小項目(はぐくみたい力) ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 その他	①言語活用能力・ICT活用能力	継続	校内・校外成果発表会の実施	校内・校外成果発表会の発表本数	350人	350人	665人	文理学科1年まこと発表 162人 文理学科2年のぞみ発表 162人 文理学科S探究発表 162人×2 SSH全国 2人、サイエンスディ 6人 市大 3人、生野高校 2人、生物 4人	A	プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合	97%	95%	98%	文理学科1年まこと発表 99% 文理学科2年のぞみ発表 97% 文理学科S探究発表 97% SSH全国、サイエンスディ、市大、生野高校、生物 100%	A	充実	課題研究「まこと」「のぞみ」についてはGLHSの指定以前からの実績があり、1年の後半から3年の前半にわたり、3年間を通じて実施していること、また、教員の指導体制が確立されている点など、高く評価できる。	A
		②基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施・	参加者数	1170人	1200人	1245人	勉強合宿1年 156人 勉強合宿2年 51人 補習・講習 1年 354人 補習・講習 2年 329人 補習・講習 3年 355人	A	合宿で学力が伸長したと回答した参加生徒の割合	98%	95%	97%	勉強合宿1年 アンケート 100% 勉強合宿2年 アンケート 96%	A	継続	勉強合宿も希望者だけとはいえ、特に、1年生は156人が参加し、満足度が100%というのはその内容の充実ぶりが感じられる。	
		③英語運用能力	継続	イングリッシュキャンプ・TOEFL講座の実施	参加者数	40人	40人	40人	希望者77名より選抜	B	英語運用能力が向上したと回答した参加生徒の割合	98%	95%	97%	語学研修 アンケート 97%	A	継続	英語運用能力の育成に向けた取組に関しては、希望者が77名いることから、今後はできるだけ多くの生徒が参加できるように工夫を期待したい。	
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目(はぐくみたい力) ・共感性 ・協働性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 その他	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入校数 ・海外スタディツアー参加者数	100人	100人	159名	マレーシア環境学習研修 75名 シンガポール語学研修 72名 大手前ケンブリッジ大学研修 10名 英国交流受入、オーストラリア教授受入	A	異文化について理解を深めることができた回答した参加生徒の割合	98%	95%	99%	マレーシア環境学習研修 100% シンガポール語学研修 100% 大手前ケンブリッジ大学研修 100% 英国交流受入、オーストラリア教授受入 97%	A	継続	海外研修については、ケンブリッジ大学やシンガポールなどの英語圏を選び、内容が充実していること、争論を含めた継続性を担保していること、毎年合計で170名の生徒が参加していることなど、優れた取組であるといえる。	AA
		⑤共感性・協働性	継続	野外生活体験学習の実施	参加者数	364人	360人	364人	1年生 校外教授による野外活動	A	この学校で良かったと回答した生徒の割合	91%	90%	96%	記述による調査 96%	A	継続	台湾との交流も加わり、大阪大学との留学生との交流、イングリッシュキャンプの実施など、異文化体験についても充実している。	
		⑥健康・体力をはぐくむ	新規	クラブ活動や学校行事の活性化	クラブ加入率	90%	90%	90%	体育系685人、文科系 284人	B	自主的積極的に生徒がクラブ活動や学校行事に参加している割合	90%	95%	95.3%	学校教育診断アンケート 自主的積極的に参加 95.3%	A	継続	クラブ活動や学校行事を大切にす伝統も引き継がれており、生徒の満足度も高い。今後も継続・発展させてもらいたい。	
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目(はぐくみたい力) ・規範意識 ・高い志 その他	⑦規範意識	新規	ボランティア活動の推進	ボランティア活動の回数	-	10回	10回	地域清掃5回 リレーフォーライフジャパン 大阪城清掃ボランティア活動 クラブ別ボランティア清掃 3回	B	ボランティア活動等に参加した生徒の数	-	200人	251人	地域清掃 45人 リレーフォーライフジャパン 6人 大阪城清掃ボランティア活動 120人 クラブ別ボランティア清掃 80人	A	充実	卒業生を活用した講演会や研修等が着実に進んでおり、高い志を育むことのみならず、大学進学におけるミスマッチを防ぐ仕組みが作られている。	AA
		⑧規範意識	継続	自己規律意識の涵養	全教員の輪番による登校指導	100%	100%	100%	生徒登校日はすべて実施	B	1年あたりの遅刻者数	3284人	2500人	2613人	前年度より飛躍的に減少した	B	継続	各種のボランティア活動も熱心に行われており、生徒が得た内容を報告会で下級生を含む他の生徒に伝えるなど、広がりを実感している。	
		⑨高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	58回	60回	88回	集中セミナー 71回 サマースクール 10回 東京研修 7回	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	93%	90%	97%	学校教育診断アンケート 91% 集中セミナー 100% サマースクール 97% 東京研修 100%	A	充実	のびのびとした自由な校風でありながらも、全教員の輪番による登校指導を行い、遅刻数の減少につなげるなど、成熟した学校マネジメントが行われていることが伺える。	
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	・研修回数 ・研修参加者数	26回	26回	30回	駿台14回、河合12回、代々木2回、他	A	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	90%	90%	90.7%	学校教育診断アンケート 満足度 90.7%	A	継続	日常的な授業見学、研究授業、民間教育産業を活用した研修や外部模試の分析などを通じ、授業力の向上を図っている。さらに、ベテラン教員からの伝達、全日制定時制課程の合同研修、他校と連携した研修など多岐にわたる取組により、質の向上を図っている。	A
		⑪授業指導力向上	継続	研究授業、授業参観の実施	・研究授業の回数 ・授業参観の回数	8回	8回	33回	授業公開5/9-14(4日×2コマ) 授業研究週間11/7-11(5日×5コマ)	A	授業を受けて、分かりやすい授業と回答した生徒の割合	85%	90%	88.8%	学校教育診断アンケート 満足度 88.8%	B	充実	進路指導についても教員が熱心に取り組んでおり、保護者の信頼も厚く、全体に評価できるものである。	
		⑫教材開発	継続	オリジナル教材の開発	・開発教材数	16本	16本	17本	国語2本、数学6本、英語5本、物理2本、化学2本	A	先生は教材や教え方に工夫していると回答した生徒の割合	83%	90%	86.5%	学校教育診断アンケート 満足度 86.5%	B	継続		
共通評価項目	V. 総合的な学力の測定	⑭英語外部検定試験							TOEFL iBTスコア60点以上の人数	0人	1人	3人	60点以上 3人 40点～59点 11人	A	継続	TOEFL iBTチャレンジの参加者は増加し、スコアの高い生徒も増えており、さらに伸ばさせてもらいたい。	AA		
		⑮英語外部検定試験							おおさかグローバル塾等基礎同等の英語検定資格取得者数	24人	30人	36人	3年17人、2年13人、1年6人	A	継続	読解力リテラシー・科学的リテラシーについては、科学オリンピック・コンクール受験者数が目標を大きく上回っており、今後さらなる成果に期待したい。			
		⑯読解力リテラシー・科学的リテラシー							科学オリンピック・コンクール受験者数	27人	30人	54人	数学オリンピック12人、科学の甲子園5人、日本数学コンクール13人、生物オリンピック1人、日本地理オリンピック5人、大阪府学生科学賞 18人	A	継続				
	VI. 進路実現	⑰3年間を見越した進路指導								国公立大学進学者数(現浪合わせ)	232人	230人	222人	現役生 124人 浪人生 98人	B	継続	大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合は、目標値は下回ったものの、高い水準を維持している。また、600点以上の現役人数は大きく増加している。	A	
		⑱大学入試センター試験への参加								大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	94.8%	95%	92%	308人	B	継続	高い志を貫き受験した結果、国公立大学進学者数(現浪合わせ)は目標値に達しなかったものの、高い目標を掲げ健闘できている。高みをめざす学校の姿勢は大切であり、今後も継続した指導を望む。		
		⑲大学入試センター試験の結果								600点以上(800点満点)の現役人数	130人	130人	164人	700点以上 24人	A	継続			
VII. 進学実績	⑳進学実績								東大・京大・阪大・神大現役・浪人進学者数	110人	110人	121人	京都38人、大阪46人、神戸37人	A	継続	東大・京大・阪大・神大現役・浪人進学者数は目標を上回っており、国公立大学現役合格者数は目標には達しないまでも、一定の高い水準で維持できている。	A		
	㉑進学実績								国公立医学部進学者数	14人	15人	5人	現役0人、浪人5人	C	継続	国公立医学部進学者数は進路の多様性から鑑みて、目標設定に一定の余地があったかもしれない。いずれにせよ、高い志をもった進路指導は評価でき、一層の発展に期待する。			
	㉒国公立大学への進学								国公立大学現役進学者数	135人	140人	124人		B	継続				
	㉓海外大学への進学								海外大学現役進学者数	0人	-	-		-	-				

総合評価

大阪の中心部、大阪城を臨む緑豊かなフィールドで、きめ細かく組織的な教育実践が着実に進められている。学校行事、部活動、キャリア教育など多岐多様な取組により、飽和状態になるのではないかと危惧もあつたが、常に改革を行い、よりよいもの、新しいものを取り入れて推進させているという学校マネジメントにより払拭されている点もすばらしい。進学実績についても、よく健闘しており、高い目標値を掲げているため達成できていない部分もあるが、十分評価に値する。今後もこれまで通り高みをめざす教育を推進し、さらなる展開に期待する。

AA

平成26年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート 府立四條畷高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-3

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																		コメント	評価		
知識・技能 社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上 言語活用能力 ICT活用能力 科学的リテラシー 読解力リテラシー 科学的リテラシー 英語運用能力 その他 	再編	(1年)学習合宿と英語コミュニケーション集中講座の実施	自学の取組についての生徒の評価(学習合宿)	93%	90%以上	91%	1年学習合宿(7/16・17)実施後の生徒アンケートによる	B	英語コミュニケーション集中講座の取組についての生徒の評価(肯定的意見)	94%	90%以上	96%	1年学習合宿初日実施。ネイティブ講師一人につき生徒10人の講座。	A	継続	<p>効率性を重視し、2年生での学習合宿を見直して講習重視へとシフトしたことや、自学自習を推進するため食堂を第3の自習室として活用するようにしたことなど、学校全体で生徒の学習環境整備に努めていることは評価できる。</p> <p>生徒は塾や予備校に頼らず学校で学ぶ習慣がついており、また3年生が2月に入っても学校に来て勉強しているのは、学校の努力の表れであろう。ただ、1年の学習時間が少ないことなど課題も見られ、早急な対応策が必要でもある。</p> <p>充実した図書館を活用し、読書活動の活性化が図られていること、プレゼンテーション大会や、エネルギー関連施設の見学に関する生徒の評価も高く、成果を上げていることがわかる。</p>	AA		
			継続	情報プレゼンテーション大会の実施(1年)	参加人数	360人	360人	361人	情報プレゼンテーション大会(11/13)テーマ「情報モラルを高校生に伝える」	B	情報プレゼン大会に向けての取組に対する生徒の評価(肯定的意見)	88%	85%以上	90%	情報プレゼンテーション大会(11/13)テーマ「情報モラルを高校生に伝える」	A	継続				
			充実	エネルギー探究(1・2年文理学科と希望者)	参加人数	1年文理学科と希望者	1年文理学科と希望者	1年文理学科と希望者	1年文理学科と希望者	1年文理学科と希望者	1年文理学科と希望者	A	エネルギー関連施設見学に対する生徒の評価(肯定的意見)	94%	95%以上	95%	エネルギー関連施設見学に関するアンケートの肯定的評価			B	継続
			新規	読書活動の活性化	コーナー展示の年間回数	60回	前年以上	81回	授業内容と連動した展示と活用等	A	年間貸出し数	11,647冊	12,000冊	12,000冊		B	継続				
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を 高い志 進路実現をめざす 	<ul style="list-style-type: none"> 高い志 進路実現をめざす 規範意識 高い志 その他 	継続	海外修学旅行の実施(2年) 学校交流	修学旅行全般についての生徒の評価(肯定的意見)	93%	90%以上	97%	台湾修学旅行(10/14~17)実施後の生徒アンケートによる	A	学校交流についての生徒の評価(肯定的意見)	68%	70%	75%	修学旅行3日目の松山高級中学校との交流	A	継続	<p>人間力あふれる人材育成をコンセプトに、台湾、オーストラリア、ドイツ、バトナム等、幅広い海外交流を実施している。特に、一部の生徒だけでなく、全員が松山高級中学校と交流する台湾の修学旅行は特筆に値する。</p> <p>また、国際交流キャンプには多くの生徒が参加し、プログラムに対する評価も目標値を大きく上回っている。</p> <p>このような豊かな異文化理解の経験を通じて、グローバルリーダーの育成に努めていることは評価に値する。</p>	AA	
				継続	オーストラリア研修の実施(1・2年希望者)	希望者数と参加人数	52人から20人を選者	50人以上から20人を選者	52人から20人を選者	オーストラリア研修(3/15~25)予定	B	オーストラリア研修参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%		A	継続			
				新規	海外スタディーツアー	参加者数	新規	10名	8名	アメリカ1名、オーストラリア1名、バトナム6名、	B	海外スタディーツアー参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	新規	80%	90%	海外スタディーツアー参加生徒によるアンケートの肯定的評価	A	充実			
				新規	異文化交流活動	国際交流キャンプの参加人数	新規	30人	37人	国際交流キャンプ(9/21、橋梁ロッジ) 関西外大の留学生10名と交流	A	国際交流キャンプ参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	新規	80%	94%	国際交流キャンプ(9/21、橋梁ロッジ) 関西外大の留学生10名と交流	A	継続			
	III. 高い志を	<ul style="list-style-type: none"> 高い志 進路実現をめざす 規範意識 高い志 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 高い志 進路実現をめざす 規範意識 高い志 その他 	継続	探究チャレンジ1(1年文理学科)	作成論文数	159部	160部	160部	1年生文理学科生徒全員が課題論文「探究チャレンジ」に取り組む	B	作成論文が外部の賞を受賞すること	0本	2以上	0本	—	C	卒業アンケートにおいて、学習と部活動の両立ができた答えが生徒が他校と比べて多かったことから、充実した高校生活を送っていることが示されている。	B		
				継続	探究チャレンジ2(2年文理学科)	外部でのポスター、プレゼン発表数	13グループ	10グループ以上	12グループ	SSH関係(横浜全国大会、若狭高校、サイエンスデ、生野高校)、GLHS関係(合同発表会)	B	作成論文が外部の賞を受賞すること	0本	2以上	1本	学芸サイエンスコンクール学校奨励賞受賞	B	継続			
				新規	自己規律意識の涵養	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日	あいさつ運動、遅刻指導	A	年間遅刻者数	1,486人	1,200人	1,045人		A	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導力向上 初任者の指導力向上 教科指導力向上 	継続	スキルアップ研修	実施回数と参加人数	年4回172名	年3回以上	年4回207名	207名		B	アンケートや感想による教員の評価(肯定的意見)	90%	90%以上	87%	教員による事後アンケート	B	継続	<p>授業改善に向け、教員研修を実施し、複数教科の授業でアクティブラーニングを取り入れ、班別学習で生徒同士が学びあう、教えあうという実践が見られた。</p> <p>授業におけるICTの活用も進んでおり、授業力の向上をめざし、学校が組織的に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>全体に面倒見の良い先生が多く、授業満足度の高さが、生徒・保護者の学校に対する信頼感へと反映されている。</p> <p>教員の学校経営への参画意識の形成が今後さらに充実していく上での課題であろう。</p>	A	
継続			初任者の指導力向上	初任者の指導力向上を目指す取り組み	初任者ミーティング回数	12回	年10回以上	10回		B	アンケートや感想による教員の評価(肯定的意見)	90%	90%以上	100%		A	継続				
継続			教科指導力向上	教員間の授業公開	実施回数	1回目は全員2回目はICT活用教員3名	1回目は全員2回目は各教科1名以上	1回目は全員2回目は21名(6教科)	他教科の授業を見学することにより授業改善につなげる	B	授業アンケートによる授業満足度	83%	80%以上	85%		A	継続				
V. 総合的な学力の測定	<ul style="list-style-type: none"> 英語外部検定試験 読解力リテラシー・科学的リテラシー 	継続	英語外部検定試験													C	継続	<p>TOEFLiBTに関しては、参加者数、結果ともに課題が見られ、今後SETの導入とともに、その点の改善が望まれる。</p> <p>外部のコンクールコンテストに関しては、目標値を達成しているものの、さらなる充実を期待する。</p>	B		
		継続	読解力リテラシー・科学的リテラシー														B			継続	
		継続	3年間を見越した進路指導														B			継続	
VI. 進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試センター試験への参加 大学入試センター試験の結果 	継続	大学入試センター試験への参加														B	継続	<p>大学入試センター試験5教科7科目受験者の高得点率、受験者割合の項目において、ほぼ目標値かもしくは上回っていることは評価できる。</p> <p>今後は、第1志望実現率、5教科7科目受験者の高得点率の増加とともに、志望そのものの充実をめざすなど、さらなる伸長を期待したい。</p>	A	
		継続	大学入試センター試験の結果															B			継続
		継続	進路実績															B			継続
VII. 進学実績	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学への進学 国公立大学への進学 海外大学への進学 	継続	国立大学への進学														B	継続	<p>難関3国立大学(京大、阪大、神大)現役・浪人合格者数、国公立大学現役進学者数とともに目標値に届かない結果となったが、国公立大学現役進学者数が減少したのは高い志のもと受験した結果とも考えられる。</p> <p>海外大学への進学者が2名おり、進路選択の多様性について展開できているものと考えられる。</p>	A	
		継続	国公立大学への進学															B			継続
		継続	海外大学への進学															A			継続
総合評価		卒業生へのアンケート結果から、学校への誇りを持っており、それを大事にしようと思っている生徒が多いことがわかる。学校のシステムも、教員の思いも生徒によく伝わっており、それらが四條畷高校の良さとなっている。アクティブラーニングを授業に取り入れるなど、授業改善への取組が継続して行われている。教員の学校経営への参画意識については課題もあるが、恵まれた環境と豊かな歴史・文化のある四條畷高校の今後の躍進に期待する。															A				

自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価審議会
評価の基準
AAA・・・きわめて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・取組の見直しが必要である

Table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 評価審議会の評価コメント, 評価. Rows include categories like I. 確かな学力の向上, II. 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力, III. 高い志を志す, IV. 教員の指導力向上, V. 総合的な学力の測定, VI. 進路実現, VII. 進学実績.

総合評価

進学実績が目標値を大きく上回るとともに、英語運用能力に対する取組実績も向上してきている。これまで、授業力の向上に関して「小中学校の先進事例の活用」や「教員の専門性を生かした実践」など、様々な取組を地道に行ってきたことが、徐々に成果につながったのであろう。ボランティア講座、支援学校や高齢者との交流など、地域との関わりを重視する多様な実践は、高く評価できるものである。高津高校にはグローバルリーダーに求められる高い社会貢献意識を涵養する土壌がある。3年後の100周年に向けて、食堂をラーニング commonsへと改装し、学びの場とする計画を立てていると聞く。社会との接点を重視し、地域との関わりを大切にしている教育の推進とともに、海外大学も視野に入れた進路を希望する生徒など、グローバルリーダーの育成に関し、さらなる展開を期待する。

AA

平成26年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート 府立天王寺高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-10

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価				
																		コメント	評価			
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立	充実	桃陰セミナー、部学習日など（勉強は学校でする自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数 部学習日実施回数	22回 21回	23回 22回	22回 15回	部学習日の扱いに変更があった。（試験前の実施をやめた。）	B	桃陰セミナー1日当たりの平均参加者数。 部学習日の各部ごとの実施回数	276名 年10回	300名 年10回	316名 年13回	部学習については平均して4回以上年間延べ人数1360人以上が参加	A	継続	難関大学への進学のみならず、人間性を育てることを重視し、グローバルリーダーの育成に力を注いでいる。海外の一流大学や高校との交流プログラム、自学自習を進める桃陰セミナーでの先輩との係わりを通じて大学への憧れを育むなど、生徒自らが勉強しなくなるような仕掛けができていない。 各教科での自主教材作成、「天模試」の実施など、教科運営委員会を活用し、基礎学力を伸ばさせる体制も整えられている。 課題であった英語についても、TOEFL講座、TOEFL対応の授業の実施などから成果を上げており、高く評価する。	A			
		②基礎学力の充実・確立	充実	天高スタンダードの充実（各学年で達成する学力基準）及び学力育成プログラムの作成	スタンダード達成基準の見直し、学力育成プログラムの作成、自主教材の作成・化・英）	自主教材（国・世・数・化・英）	左記以外の科目を作成。補習は定期考査毎に実施	左記と同じ科目を作成。補習は定期考査毎に実施	国語は改訂版を作成した。	B	スタンダード達成基準の明確化 独自教材の作成教科の増加	学力育成プログラムの作成。 作成教科の増加は0	学力育成プログラムの改訂 独自教材教科の増加	学力育成プログラムの改訂 作成教科の増加は0	国語は改訂版を作成した。	B	充実					
		③英語運用能力	充実	イングリッシュキャンプの実施 英語の授業にTOEFLを活用した授業を実施する。 TOEFLを活用した講習を土曜日に実施する。	参加人数で評価。 TOEFLを活用した土曜講習への参加者。	イングリッシュキャンプ40名	イングリッシュキャンプ40名	イングリッシュキャンプ55名	1年46名・2年9名 阪大留学生のへ39名	TOEFLを活用した土曜講習の実施回数と参加した1日当たりの参加者数。	A	TOEFLを活用した土曜講習の実施回数と参加した1日当たりの参加者数。	-	30回 40名	18回 41名	TOEFLチャレンジテストを87名受験し、80点以上が2名、70点以上が1名、60点以上が11名、50点以上が12名、計50点以上が26名という結果になった。	A			継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をほぐす	④人権意識、共感力の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 各種講演会、ワークショップの実施	各種講演会の回数 ワークショップの回数	4回 4回	4回 4回	5回 3回	講演会 1年2回・2年3回 ワークショップ 1年1回・3年2回	B	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	90%	90%	90%	充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続	天高育成プログラムとして、山荘での野外活動、水泳訓練、金剛登山のほか、各種講演会、ワークショップ、音楽鑑賞・文楽鑑賞など盛りだくさんの行事があり、生徒はこれらの行事を通して、豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をほぐくんでいる。これらは、いずれも生徒からの満足度は高い。野外活動等については、安全面に十分留意の上、実施形態を工夫して。継続された。	AA			
		⑤チームでの取組	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 野外生活体験学習、水泳訓練、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの実施	計画通りの実施	全て計画どおり実施。	計画通りの実施	計画通りの実施	野外生活体験学習、水泳訓練、金剛登山、徒歩訓練、長距離走、どれも天高の伝統的な行事で、今年度も大変充実したプログラムであった。	A	行事ごとの生徒アンケートにより満足度	90%	90%	90%	充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続					
		⑥日本古来の伝統に触れる。（感性の育成）	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 音楽鑑賞、文楽鑑賞	計画通りの実施	全て計画どおり実施。	計画通りの実施	計画通りの実施	1年生全員が音楽鑑賞、2年生全員が文楽鑑賞を実施した。	A	行事ごとの生徒アンケートにより満足度	80%	90%	90%	充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続					
	III. 高い志をほぐくみ、進路実現をめざす	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成	充実	学校遅刻者の減少	学校遅刻者数	2276人	1800人	2024人	11ポイント減少した。	B	部活の加入率	97%	97%	100%	約70%が運動部、約40%が文化部に所属している。（のべ110%が加入している。）	A	充実	SSHを活用したハーバード・MIT研修をはじめ、海外研修は各種あり、内容も専門的で生徒の満足度も高い。 大学見学会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミア等の実施など、高い志を育む仕掛けも盛り沢山である。 文武両道をめざす天王寺高校らしく、部活動の加入率100%は優れた成果ではあるが、一斉、学習面で求められるレベルが高いため、各生徒に對する教員の支援体制の充実が求められる。	AA			
		⑧高い志の育成	充実	天高育成プログラムで示される力の育成 大阪大学見学会、京都大学見学会、社会人講演会、学部学科説明会 天高アカデミア等の実施。	講演会の実施回数	天高アカデミア10回	天高アカデミア15回	天高アカデミア12回	各見学会や講演会参加者のアンケートの満足度（非常に満足、満足合計）	B	各見学会や講演会参加者のアンケートの満足度（非常に満足、満足合計）	87%	90%	90%	充実した感想文が多数寄せられた。（学校教育自己診断によるデータ）	A	継続					
		⑨海外セミナーの実施	新規	SSHを活用した海外研修（HARVARD, MIT, CAMBRIDGE） GLHSを活用した海外研修。（CALTECH, UCLA等） 独自の取組による海外研修。	生徒の満足度。（非常に満足、満足合計）	85%	90%	100%	国語1回、社会1回、数学3回、理科1回、外国語1回、保健体育10回 このうち外部へ公開したの2回	A	海外セミナーに参加した生徒の内、将来、海外留学を希望する割合。	70%	80%	93%	充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続					
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩研究事業の実施 授業参観日実施	継続	他の教員の授業を見学する。授業公開習慣を設置する。研究授業を行う。	研究授業の回数。 教員1人当たりの授業見学回数。	研究授業は延べ10回。授業見学平均4回	左記を上回る	研究授業は延べ17回。授業見学平均4.8回	国語1回、社会1回、数学3回、理科1回、外国語1回、保健体育10回 このうち外部へ公開したの2回	A	生徒の授業の授業アンケート（満足度）	83.8%	85%	84.3%	1回目（7月）83.4% 2回目（1月）84.3% 2回目が少し高くなり、授業改善に繋がったといえる。	B	充実					
		⑪他府県の先進校見学 教科指導研修会の実施	継続	大阪府内外の先進的な取組を行っている学校を視察する。また、外部講師による教科指導法向上の講座を開講する。	視察校の数。外部講師により教科指導法講座の回数。	視察校7校 外部講師による教科指導法講座8回	左記を上回る	視察校3校 外部講師による教科指導法講座5回	大分県大分上野丘高等学校 2名 千葉県千葉高等学校 1名 他1校	B	生徒による学校教育自己診断アンケート（授業や教材、教え方の満足度）	87%	90%	91%	（学校教育自己診断によるデータ）	A	継続					
		⑫新採用や経験の浅い教員対象の研修会	継続	桃陰塾として実施する。	月に1回実施する。	7回実施	8回実施	7回実施	天高の教員になる。（歴史と伝統、校風を理解及びチーム天王寺の自覚についてのアンケートによる。）	B	天高の教員になる。（歴史と伝統、校風を理解及びチーム天王寺の自覚についてのアンケートによる。）	-	90%	95%	（新任・転任者アンケートによるデータ）	A	継続					
V. 総合的な学力の測定	⑭英語外部検定試験													TOEFLスコア	-	60点以上11人 80点以上1人	60点以上11人 80点以上2人	TOEFLチャレンジテストを87名受験し、80点以上が2名、70点以上が1名、60点以上が11名、50点以上が12名、計50点以上が26名という結果になった。	A	継続	英語運用能力に関して、各種の海外セミナー、TOEFL仕様の授業、土曜日にを行うTOEFL講座を実施した結果、TOEFLチャレンジテストの結果がめざましく伸びている。SETの配置もあり、今後も進展が期待できる。 また、科学オリンピック、科学コンテストの受験者数も増加し、成果を上げており、十分評価に値する。	AAA
	⑮英語外部検定試験													TOEFL・TOEIC受験者数	75名	80名	87名	海外セミナー参加者、TOEFL授業受講者、土曜日にTOEFL講座受講者、のうち希望者が参加した。	A	継続		
	⑯読解力リテラシー・科学的リテラシー													科学オリンピック、科学コンテストの受験者数	130名	140名	155名	生物72名・化学32名・物理2名 情報15名・数学28名 科学の甲子園6名	A	継続		
VI. 進路実現	⑰3年間を見越した進路指導													難関国立大学（東大、京大、阪大、医学部医学科）現役・浪人受験者数	304名	320名	364名	受験者数は20ポイント増加した。	A	継続	難関国立大学（東大、京大、阪大、医学部医学科）現役・浪人受験者数、大学入試センター試験5教科7科目の受験者の得点率80%以上の人数とともに目標値を大きく上回っており、高い志を貫こうとする姿勢はすばらしい。 大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合は高止まり感があるが、今後も継続した指導を期待する。	AA
	⑱大学入試センター試験への参加													大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	360名中、345名 96%	96%	358名中、337名 94%	ほとんどの生徒が国立大学志望。	B	継続		
	⑲大学入試センター試験の結果													大学入試センター試験5教科7科目の受験者の得点率80%以上の人数	106名 (29%)	30%	117名 (34%)	5ポイント増加した。	A	継続		
VII. 進学実績	⑳進学実績													難関国立大学（東大、京大、阪大）現役・浪人合格者数	97名	100名	108名	11ポイント増加した。	A	継続	難関国立大学（東大、京大、阪大）現役・浪人合格者数が増加しているものの、医学部医学科への現役・浪人合格者数、国立大学現役進学者数は、自己評価が高く感じられるくらい、目標を大きく下回った。 難関大学を受験するがゆえに、継続して安定した結果を出すことは困難だが、今後も高みをめざす指導の継続に期待するとともに、的確な進路指導についても検討したい。	AA
	㉑進学実績													医学部医学科への現役・浪人合格者数	23名	25名	16名	延べ87名受験したが、合格者数は3割減少した。	B	充実		
	㉒国立大学への進学													国立大学現役進学者数	160名 (44%)	170名 (47%)	137名 (38%)	6ポイント減少した。	B	充実		
	㉓海外大学への進学													海外大学現役進学者数	0名	0名	0名	最終的には出なかった。	B	充実		
総合評価		山荘での野外活動、水泳訓練などの行事の継続はさまざまな意見があるだろうが、安全性等に配慮することを前提に、生徒をたくましく育成する観点から、実施形態等を引き続き工夫されたい。進学のみでなく、大学との連携、海外研修など、様々な行事が実施されることで、大学とのマッチングが行われ、将来の学びにつながっている。これらの多くの行事を実施できるのも、卒業生が講演会や大学見学会などの行事に関わるなど、同窓会などからのサポート体制が整っているからであろう。一方、このように学校生活が高い水準で充実しているだけに、学力面等で挫折する生徒をどのように支援するかが課題となるであろう。進学実績についても堅調を維持しており、今後ますますの伸長に期待する。															AAA					

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る 小項目(はぐくみたい力) ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力 ・科学的リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①基礎学力の定着	継続	自学自習時間を増やす取組み 進路講習の実施	学習状況調査の実施 進路HRの実施 3年進路講習参加者数	3回 各学年5回 講習参加者 延べ816名	3回 各学年5回 延べ720名	3回 各学年5回 延べ990名		B	各学年の自学自習時間 1年・2年平日の平均自学自習1時間 未満の割合 アンケートによる生徒の評価(講習 満足度)	1年77分2 年83分3年 205分 1年20% 2年22% 3年講座別 授業 満足度 95.5%	1・2年90 分、3年 180分 1時間未満 30%以下 満足度8 0%以上	1年66分 2年98分 3年203分 1年27% 2年10% 3年講座別 満足度 未調査		B	継続	自学自習時間を増やす取組として、生徒に「生野高校生スタンダード」としてモデルを示し、自己評価させるとい実践の成果が上がっており、教員も組織的に指導できている。また、自習室開放、外部教育機関の自習室の活用など、自学自習の定着に向けた様々な策を講じているが、今後も改善に向け指導を続けられたい。	A	
		②言語活用能力・ICT活用能力	充実	プレゼンテーション能力の向上	プレゼンテーション発表者数(校内・校外) 海外サイトでの研究発表	校内:560名 理系探究IIは英語で発表 校外:225名	校内:560名 校外:40名	校内:715名 理系探究IIは英語で発表 校外:194名	3月実施のサイエンスツアーでの発表も含む 1年・2年別々にプレゼンテーション能力向上のための講座を実施した。	A	アンケートによる生徒の評価(2年の発表を見た1年の満足度)	97.50%	80%以上	96.70%	今年度より普通科生徒も含め、1年と2年全員が2年「探究II」発表会を見学	A	継続	探究型の学びについては、校外での発表の機会を増やし、全員が英語によるプレゼンテーションを行うなど、ノウハウができてきている点、課題研究の指導方法が教員間で継承されている点も評価できる。今後は、文系の課題研究の充実も期待する。	A	
		③英語運用能力	継続	イングリッシュキャンプの実施	1学年で実施	1学年全員参加	1学年全員参加	1学年全員参加		B	アンケートによる生徒の評価(満足度)	81%	80%以上	79.3%		B	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目(はぐくみたい力) ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力	④違いを認め共に生きる力	充実	異文化理解教育の推進	海外サイトでの参加者数	海外サイトでの参加者数 GLHS研修2名 韓国釜山交流4名	70名	70名	海外留学(NZ)へ1名 短期研修(チェコ)へ1名 オーストラリアから交換留学生1名 来校 台湾高校生一日交流(5月) 日中友好一日交流(12月)	A	アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	スタティッ ア93% サイエンス 77-95%	90%以上	77-100% 71-100%		A	充実	オーストラリア研修や海外サイエンスツアーへの参加者数が増加しており、大学の講義や現地の学生との交流など、さまざまな経験が積んでいる。また恒常的な交流として留学生の受け入れも行っており、生徒にはこれまでに以上に意識の変化が見られる。	AA	
		⑤共感性、協調性、健康・体力を育む	継続	部活動・学校行事の活性化	自治会による部代表者会議及びリーダー研修会実施による所属集団への貢献と自己目標追求の姿勢を涵養 学校行事に進んで参加する生徒の割合	年間6回と リーダー研修 行事参加率 88%	年間6回と リーダー研修 行事参加率 85%以上	年間6回と リーダー研修 行事参加率 87%		B	学校教育自己診断による生徒の評価(達成感・満足度)	而立 55% 行事満足度 88%	学習・部活動 而立60% 行事満足度 85%以上	而立 57% 行事満足度 87%		B	継続	盛んな部活動、学校行事との兼ね合いもあって、授業との両立については実績が上げていくであろうが、着実に数値を上げていることは評価できる。		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目(はぐくみたい力) ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑥規範意識	継続	欠席・遅刻を減らす取組み	教員の一致した指導	保護者との連携及び生指部による段階的指導	保護者との連携及び生指部による段階的指導	保護者との連携及び生指部による段階的指導		B	3年欠席者数 遅刻者数	3年欠席者数 2606 遅刻総数 2982	欠席数前年度 以下 遅刻数前年度 並み	3年欠席者数 1795 遅刻総数 1947		A	継続	教員が一致して欠席・遅刻を減らすことに努めた結果、3年生の遅刻、欠席者数は激減し、指導の成果が確実に上がっている。		
		⑦高い志を育む	継続	国公立大学へのキャンパスツアー 卒業生等による講演会 リーダー講習会 地域清掃等ボランティア活動	キャンパスツアー参加者数 講演会の回数 講習会の参加者数 地域清掃活動の回数	キャンパスツアー 1年360名 一人二校 阪大20名 京大22名 講演会1回 講習会80名 地域清掃4回	参加者50名 講演会5回 参加者80名 地域清掃2回	1年夢ナビ 212名 阪大18名 講演会3回 リーダー講習会100名 地域清掃3回	講演会①「世界で活躍するという夢」 講演会②「プレゼン道」 講演会③「効果的なプレゼン技術」	B	アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	京大キャンパス 満足度 95.2% 講演会未調査	80%以上	夢ナビ概ね 好評 京大キャンパス 満足度83.3%	京大キャンパスガイド・スーパー レックス 興味関心の肯定度77.8%	B	継続	高い志を育むため、国公立大学へのキャンパスツアーをはじめ、多様なメニューの講義を体験できるような工夫を凝らしている。また地域清掃等のボランティア活動など、多面的に活動が行われており、いずれも生徒の満足度は高く、学びへのモチベーションアップにつながっていると言える。	AA	
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑧授業力の向上	継続	校内における研究授業の実施 授業の相互参観	研究授業の回数 相互参観の教員参加率	国社数理英で 2回以上実施 教諭全体の 86% が参観 平均3.1回 (最多15回)	各教科1回 以上 全教員	社・数・理・英で2回以上実施 参観率 69.8% 平均2.3回		C	授業評価による授業理解度	1年 80.4% 2年 78.0% 3年 84.9%	1年 7 0%以上 2年 8 0%以上 3年 8 5%以上	1年 71.2% 2年 78.1% 3年 86.6%		B	継続	学校全体として、校内研究授業や相互参観の実施、民間教育産業の研修への参加などを行い、授業力向上に努めている。 また、アクティブラーニングへの橋渡しとしてペアワークを取り入れたり、反転授業を行うなど、生徒の思考力を高めるような授業を行なっている。	B	
		⑨授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	校外19名 校内数英で実施	前年度並み (31名)	校外 延べ45名 国社数理英 で参加 校内数英実施		A	授業評価による授業理解度	1年 80.4% 2年 78.0% 3年 84.9%	1年 7 0%以上 2年 8 0%以上 3年 8 5%以上	1年 71.2% 2年 78.1% 3年 86.6%		B	継続	授業改善に向け、校長が様々な手立てを講じ、マネジメント力を発揮していることから、学力のさらなる伸長を期待する。		
	V. 総合的な学力の測定	⑭英語外部検定試験										TOEFLiBTスコア	-	2年受験者の 10%がスコア 50点以上	0名	2年受験者 1回目56名、2回目35名 最高スコア 43	C	充実		
⑮英語外部検定試験											2年生終了時点での英検2級の資格 取得率	28.9%	50%	43.9%		B	継続	昨年と比べてTOEFLiBTについての取組も進み、着実に成果を上げている。	A	
⑯読解力リテラシー・科学的リテラシー											科学系オリンピック・コンテスト等の参加者数	78名	H24年度並み (75名)	74名		B	充実	コンクールやコンテストについても、積極的に参加し、英語で発表する機会を作るなど、よりよく取り組めており、評価できる。		
VI. 進路実現	⑰3年間を見越した進路指導										進路希望達成率	71.4%	65%	73.1%		A	継続	進路希望達成率、大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合及び受験者の得点が全国平均の110%以上の割合のいずれもが、目標値を大きく上回っており評価に値する。	A	
	⑱大学入試センター試験への参加										大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	280名 78.0%	80%	293名 81.3%		B	継続			
	⑲大学入試センター試験の結果										大学入試センター試験の5教科7科目 の受験者の得点が全国平均(900 点満点)の110%以上の割合	文系65% 理系45%	60%	文系65.4% 理系62.3%		A	継続	これまで実施してきた教員の指導力向上の取組の成果が上がったものと考えられる。特に理系の伸長がめざましく、今後も引き続き指導にあたられたい。		
VII. 進学実績	⑳進学実績										京大・阪大・神大・大教大・市大・ 府大の合格者数	147名	150名	140名		B	継続	京大・阪大・神大・大教大・市大・府大の合格者数は一定の結果を出しているが、目標値には達しなかった。国公立大学現役進学者数については目標値を掲げないまでも、前年を上回っており、進学実績全般を見ても、成果が上がっている。	A	
	㉑国公立大学への進学										国公立大学現役進学者数	129名	-	135名						
	㉒海外大学への進学										海外大学現役進学者数	0名	-	0名						今後は進路の多様性の観点からも、海外大学への進学も視野に入れた指導の進められることを望む。

総合評価	組織的な運営が進められており、各組織が学校経営計画に基づき目標を立て、PDCAサイクルの効果的な運用により各取組を実践している。生野スタンダードにより、教員が組織的に動いている点も評価できる。また、課題研究により探究型の学びが深まることで、進路のミスマッチを防ぐなどにおいても、確実に成果を上げている。生野高校はGLHS指定により大きく変化した学校であると考えており、今後のさらなる進展に期待する。	AA
------	---	----

平成26年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 府立岸和田高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-8

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																		コメント	評価		
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	小項目「はぐくみだいか」 ・言語活用 ・ICT活用 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	英語運用能力・プレゼンテーション能力および科学的リテラシーの向上 ①岸高インテンシブ英語研修の実施 ②英検実施 ③TOEFL会場(新規)	・参加人数	①インテンシブ英語研修参加者95名(夏65名、冬35名) ②英検受験者 98名 ③TOEFL参加者 40名	①50名以上 ②80名 ③40名	①54名 ②82名 ③36名	・新規 グローバルリーダー育成プログラム(エンパワメントプログラム)の追加実施 参加者 39名	A	アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見) 「英語研修プログラムに満足していますか。」	・インテンシブ英語研修満足度90%以上	80%以上	96%	・グローバルリーダー育成プログラム(エンパワメントプログラム) 満足度100%	A	再編	基礎学力の向上を重視しており、平日は7限までの講習、土曜日午前中の補習、今年から始まったサポート講習、テストのやり直しを行うなど、丁寧な指導が細密的に行われている。「グローバルリーダー育成プログラム」を作成し、3年間を見通した生徒の育成に努めていることも評価できる。 英語運用能力・プレゼンテーション能力および科学的リテラシーの向上をめざし、様々な取組を行っており、生徒の満足度も高く、成果が上がっているといえる。	A		
			充実	土曜日の午前の活用 ・特進ゼミ(土曜講習)実施(千亀利セミナーの実施)	・特進ゼミ(土曜講習)実施回数(千亀利セミナーの実施回数)	・特進ゼミ(土曜講習) 33日	・25日以上	・33日		A	アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見) 「土曜日の講習や千亀利セミナーに積極的に参加している。」	土曜日の講習や千亀利セミナーに積極的に参加している。48%(今年度初めての質問)	50%以上	41%		B	継続				
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目「はぐくみだいか」 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	充実	人間関係づくりと豊かな人間性の涵養 ①オーストラリア語学研修の実施 ②岸高祭の開催 ③人権HRの実施 ④台湾修学旅行の実施	①オーストラリア語学研修参加者人数 ②岸高祭の観客動員数 ③人権HRの実施回数 ④参加人数	①オーストラリア語学研修参加者30名 ②文化祭来場者4000名以上 ③3年間で4回 ④台湾修学旅行参加人数320名	①30名 ②2500名以上 ③3年間で4回 ④360名	①30名 ②4000名以上 ③3年間で4回 ④360名	・新規 グローバルリーダー育成プログラム(U・Cパーク)の研修 参加者決定 16名	A	アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見) 「学校交流はいいかでしたか」	・オーストラリア語学研修満足度90%以上	80%以上	93%		A	再編	一生涯勉強し、一生涯活動もする岸高生に対する、先生方の思いが強く、教員が生徒とともに目標を達成しようとしている姿には好感がもてる。 海外研修については、オーストラリア語学研修に加え、新たな計画があると聞く。部活動・研修いずれも生徒の満足度が高く、今後も充実した取組を期待する。	A		
			継続	クラブ活動の振興と学校行事の充実 ①クラブ活動の活性化 ②体育祭の実施 ③鍛錬満足参加率	①クラブ加入率 ②体育祭参加率 ③鍛錬満足参加率	①クラブ加入率97.5% ②体育祭参加率98%以上 ③鍛錬満足参加率98%以上	①23 ②共に95%以上	①96% ②98%以上 ③98%以上	・クラブ生対象メンタルトレーニング講座実施	A	①アンケート感想によるクラブ満足度「クラブ活動に熱心に参加している。」 ②行事満足度(肯定的な意見) 「学校行事に楽しく参加している。」	①生徒はクラブ活動に熱心に参加している90%以上 ②学校行事に楽しく参加している90%以上	①②共に80%以上	①91% ②90%		A	継続				
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目「はぐくみだいか」 ・規範意識 ・高い志 ・その他	充実	夢、希望、高い志をもたせる講演などの企画 ①進路講演の実施 ②出前授業の実施 ③主要大学「フチャカ」への参加促進(1年生)	①実施回数 ②1のべ授業授業参加人数 ③2-2講座数 ④オープンキャンパスの参加1年生全員	①講演実施回数6回 ②1のべ出前授業参加人数 1360名 ③2-2 講座数 21講座 ④オープンキャンパスの参加1年生全員	①6回 ②-1 1080 ③15名	①6回 ②-1 1080 ③15名	・1年生対象GLHS講習会実施	A	①現役国公立大学合格者数 ②関東の大学への合格者数	①137名 ②10名	①120名 ②10名	①106名 ②8名		B	継続	探究型の学習については、文理学科の生徒全体で実施することが定着するとともに、普通科の生徒にも広がっている。 また、授業においても、知識を詰め込むのではなく、生徒に考えさせる授業が展開できてきている。 将来に向けて、夢や希望、高い志をもたせる講演などを企画し実施できているが、生徒の満足度からまだ改良の余地があると考えられるため、さらなる充実を期待したい。	B		
			継続	自分を大切に、他の人も大切にすることを規律・規範の確立 ①朝の挨拶運動の実施 ②登校指導の実施	実施回数	①朝の挨拶運動 年120回以上 ②登校指導 年60回以上	①年100回以上 ②年50回以上	①年130回以上 ②年60回以上		A	アンケートや感想による①生徒・②保護者の評価(肯定的な意見) 「社会人としてのモラルを守る生徒を育てようとしている。」	・社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている ①生徒78% ②保護者90%	①生徒・②保護者共 80%以上	①73% ②87%		A	継続				
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目「はぐくみだいか」 ・規範意識 ・高い志 ・その他	継続	公開授業週間の設定 生徒の授業アンケートの実施 ①公開授業週間の設定 ②生徒による授業評価実施 ③ICT機器の活用	①教科毎に1週間 ②年間2回 ③活用教員数	①公開授業週間 教科毎に1週間実施 ②生徒による授業評価回数 年2回 ③15名	①教科毎に1週間 ②年2回 ③15名	①教科毎に1週間 ②年2回 ③20名以上	・ICT機器(電子黒板付プロジェクター)全教室に設置 ・ICT(電子黒板付プロジェクター)活用研修会実施	A	授業満足度(授業アンケート) 「授業に満足している。」	・授業に満足している78%	80%以上	75%		B	継続	アクティブラーニングを推進しようとしている点については評価できる。今までの一斉授業ではない形態を取り入れ、授業の一部で、生徒同士に考えさせて、なぜそうなるのかと理解を深めるような授業を行っているのは優れた実践である。ただ、高校で定着するのかがどうか、今後も継続して授業力の向上への努力が求められる。 ICTの活用は一定進んでいるが、まだ工夫の余地があり、授業満足度も1年を主として下がっていることから、改善が求められる。	A		
			継続	学習コンテンツの開発 ①2年生探究発表大会の実施 ②3年生キャリアスタートゼミの実施	①探究発表本数(①-1口頭発表本数、①-2ポスター発表本数) ②キャリアスタートゼミのメニュー作成	①-1探究発表 口頭発表10本 ①-2探究発表 ポスター発表80本 ②キャリアスタートゼミのメニュー開発	①-1口頭発表6本以上 ①-2ポスター発表30本以上 ②メニュー開発	①-1口頭発表9本 ①-2ポスター発表74本 ②メニュー化進展	・探究発表会 保護者への初公開実施	A	キャリアスタートゼミの達成感 「わかった、なるほどと思ったことがあった。」(今年度、初めての質問内容)	60%	60%以上	66%(今年初めての質問内容)		A	再編				
	共通評価項目	V. 総合的な学力の測定	英語外部検定試験 読解力リテラシー・科学的リテラシー	英語外部検定試験								TOEFLIBTチャレンジスコア	3名(チャレンジスコア)	50点以上3名	1名		B	継続	英語運用能力について、TOEFLIBTチャレンジのスコアは目標を達成できていないが、昨年と比べて参加者数の増加、平均スコアの上昇など、改善が見られる。 読解力リテラシー・科学的リテラシーに関して、全国規模のコンクール・コンテスト等の参加者数を大きく伸ばしており、積極的に活動している様子がうかがえる。 今後も、学校全体で取り組み、成果を上げてもらいたい。	A	
				英語外部検定試験									①英検：合格者 ②インテンシブ英語研修における会話力伸び率	①2級13名、準2級24名第3回の結果待ち ②業者がかわり該当のアンケートが無くなった。	①2級15名、準2級25名 ②経験者120%、新規130%	①2級19名、準2級29名 ②合計130%のうち経験者167%		A			再編
				読解力リテラシー・科学的リテラシー									全国規模のコンクール・コンテスト等の参加者	・全国規模のコンクールへの参加34名	15名以上	69名		A			充実
		VI. 進路実現	3年間を見越した進路指導 大学入試センター試験への参加	進路希望(国公立、私大、短大、専門学校、就職)達成率。3学年4月の進路希望(国公立、私大、短大、専門学校、就職)と翌年3月末までの進路を比較して判定。									進路希望(国公立、私大、短大、専門学校、就職)達成率。3学年4月の進路希望(国公立、私大、短大、専門学校、就職)と翌年3月末までの進路を比較して判定。	158名(43.9%)	160名(50%)	145名(45.7%)		A	継続	進路希望達成率については、目標値を下回っているが、前年度の実績よりは割合を上昇させている。 大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合、得点率80%以上の受験者数(割合)については、ほぼ目標値となっており、一定の評価ができる。 進路実現の項目については、概ね計画通りであると考えられる。	A
大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合												大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	238名(75%)	238名(75.1%)		A	継続				
大学入試センター試験5教科7科目得点率80%以上の受験者数(割合)												大学入試センター試験5教科7科目得点率80%以上の受験者数(割合)	26名(8%以上)	25名(7.9%)		A	継続				
VII. 進学実績		進学実績 国公立大学への進学 海外大学への進学	国公立大学 & 主要私大(早稲田・慶応・上智・東京理科大学・MARCH・関関同立・京女・同女・薬学部・歯学部・医学部)現役進学者数									国公立大学 & 主要私大(早稲田・慶応・上智・東京理科大学・MARCH・関関同立・京女・同女・薬学部・歯学部・医学部)現役進学者数	215名(59.7%)	160名(50%)	208名(65.6%)		A	継続	国公立大学 & 主要私大の現役進学者数の割合は増加しているが、国公立大学現役進学者数は減少しており、私立大学進学者数が昨年より大きく増加していると考えられる。 これは、進路希望によるものであるか、あるいは結果としてそうなったのか、分析と検討及び対策が必要であろう。今後の指導に期待したい。	B	
			国公立大学現役進学者数									国公立大学現役進学者数	133名	120名	102名		B	継続			
			海外大学現役進学者数									海外大学現役進学者数	0人	0人	0人						
総合評価				前校長が完成させた、3年間の教育活動の意義と目的が一目瞭然となる「岸和田高校人材育成プログラム」を授業力向上の観点から、継承し、さらに発展させている。具体的にはアクティブラーニングの試み、課題研究の展開などであり、評価できる。普通科と文理学科において、卓越した生徒をさらに伸ばさせるとともに、広く生徒の基礎学力をつけるよう、それぞれのタイプの生徒に対するアプローチなど工夫すべき点はまだあろう。授業アンケートの経年変化の分析、保護者参観など、今後取り組むことで、改善・改良され、さらに伸ばされることを期待する。														A			